

# 富岡地域づくり 協議会だより



第13号

平成30年4月10日

広 報 委 員 会

<http://www.town-tomioka.click/>

## 富岡三世代まつりが開催されました

平成30年2月25日（日）10時より富岡まちづくりセンターにて、富岡三世代まつりが開催されました。本年度にて23回目になる実績のある事業です。



これは、富岡地域づくり協議会の事業として、富岡三世代まつり実行委員会が実施しているものです。富岡地区母子愛育班をはじめ、西富小学校区子ども会育成会等地区内の各団体がこれに関わり、本事業の充実のために多大なご尽力をいただいています。

行事の名称そのままに、子ども達から高齢者まで、昔の遊びを体験しながら、地域のみなさんで楽しく交流することを目的に開催されています。



竹馬、お手玉あそび、こま回し、あきかんつみ等20を超える催し物が設けられています。ポケットシアターや紙芝居等実施時間が決められているものもあります。すいとん、わたあめ、ポップコーンのコーナーもあり、子どもから大人まで十分楽しめるように工夫されています。

参加者は、まちづくりセンター入口付近の受付で、スタンプカードを受け取り、思い思いの催し物の場所へ向かいます。そして、遊んだところでスタンプを押してもらうこととなります。いくつか決めた場所でじっくりと遊ぶのもよし、可能な限りスタンプ集めに興じるのもよしで、楽しみ方の選択肢もいくつかあるようです。ペットボトルのわなげやあきかんつみ等では、記録賞も発行されていました。そのもらった賞状を得意気に見せ合っていた子ども達の集団もありました。また、親子で話題にし、子どもを褒める材料にしていた光景も見受けられました。



ところで、今回の参加者は500名ほどで、どの催し物も盛況で、並んで待たないと遊べないところもかなりありました。メモスタンドやお手玉やメモ帳やバルーンやらと両手に余るほどのおみやげをもらって満顔の笑顔の子もいました。



三世代が同一時期・同一場所に集い、何かをするという機会はそうめったにありません。この三世代がうまく交流が図れて、それぞれがそれぞれの楽しみが持てたというのも培ってきた伝統と個々の参加者や実行委員の意識の高さがもたらしたのかなと思います。

3時間ほどのお楽しみ会でしたが、この意味で所期の目的がしっかりと果たせたのではと思われました。細かな配慮と共に具体的な考慮をいただきました実行委員の皆様、本当にありがとうございました。



◆三世代まつりの様子



◆砂川掘美化清掃の様子

環境推進委員や有志の方によりウォークラリーのコース(砂川掘)を清掃しました



<編集後記>

冒険写真家、石川直樹という人物についてです。

1977年、東京都生まれ、『CORONA』『最後の冒険家』『ぼくの道具』など著書が多数ある。2000年、23歳で北極から南極まで人力で踏破。翌年チョモランマに登頂し、世界七大陸最高峰登頂の最年少記録を塗り替えた。・・・

概略を紹介するところであるが、ある雑誌でインタビューに答えているその内容に惹かれるものがあり、ここに取り上げたいと思いました。

「体を鍛えて限界にチャレンジしたいとか、頂を制覇したいというよりも、見たことがない風景を見てみたい、そこで、新しい世界に触れたいという気持ちが強いので。」

「7ヶ国から8人の若者が集まり、約1年かけて北極から北米、中米、南米を通して南極点まで、ひたすら自転車やスキーなど人力で移動するというものです。」

「僕は生きる力をもっている人たちがすごく好きです。北極のイヌイット、ヒマラヤのシェルパ族、オーストラリアのアボリジニー・・・。その場所で自分の体を頭からつま先まで使って、そこにあるものを使って生きている人たちにとっても惹かれます。」

自分の足で外に出る、自分の体をその場所にもって行くことが大切なことという見識をもち、そしてそれを具体的に実践している人という感を強くもちました。高校2年生のときにひとりでインドに行ったという行動力もさることながら、多様な興味関心と多彩な能力と強靱な体力とを持ち合わせた人なのかなとも思いました。

何かひとつでも見習えるものがあればと思います。